

# 五神通町 埋立工事

話は少し遡るが、大正の末期、神通町で貸家一棟を買取った。現在の私の住宅東側駐車場辺りの前身である。前側の道路に面し、四、五軒建一棟の所謂長屋である。前所有者は中新川郡より撰出の県会議員、和田喜一氏所有の物であった。その当時は、その貸家の裏側（現在の私の住宅跡地）と、南側は、山口輝夫氏宅から富山石油スタンド駐車場迄、西側は、現小池石油スタンドに面した道路迄、全部が蓮畑であった。亦西側は、スタンドの道路に面した一列の住宅の裏側も一面の蓮畑であった。現私の住宅側で約二、〇〇〇坪位、道路向側で約一、〇〇〇坪位、計三、〇〇〇坪位の蓮畑を、昭和元年頃（西別院工事了直後頃）買取った。前所有者は、現安田公園西側に至る、太田氏の祖父、太田作太郎氏からであった。

大正七、八年頃、神通川の川流変更に伴う大改修工事が、内務省の直轄事業として着工された。旧神通川に廃川地が多く出来た。現在の牛島地内の、当社に通ずる松川に架かって居る橋付近は、藩政時代「八田の瀬」と言って、旧神通川を此処で堰止めて、城の周囲を湖水と化し、敵の攻撃に備える為の要所であった。故に提防を兼

ねた、広大な土埋り地帯であった。父がその土の払下げを受け、盛り土の部分を開削り取って、余った土で前記約三、〇〇〇坪の蓮畑を土盛した。トラックの無い時代だったので、トラックの無い時代だったので、朝鮮人労働者一団（約五十名内外）の組織を持つ日本人親方に下請させた。当時朝鮮人労働者の日給は、一日五十銭位であった。現代語で言えば、「ミニ開発工事」である。橋北一帯では、且つて無い大土木工事であった。地域住民は、目を見張って工事の成り行きを注目して居たが、順調に完成した。



用とし、南側を分譲した。第一に、現富山石油スタンドの処は前所有者田村滋次郎氏に。浅岡医院の処は元の小西医院に。石丸氏と川口氏の処は大橋氏に。夫々分譲し、建物は私の店の手配で建築した。山口輝夫氏の処はぐんと遅れて昭和七、八年頃迄手持ちになったと記憶している。亦、西側の一、〇〇〇坪口の方は専売局に、七、八〇〇坪分譲し、残りは手持ちになった。分譲価格は、大体坪当り二十円から三十円位だったと思う。専売局に売却した残りの手持ち

田氏から買った長屋を小西医院側に移転し、これを振り出しに祖父が隠居仕事に監督し、更に追加、増し、最後には十五軒位の貸家を建設した。貸家の裏側の空地を利用して、幅六間、長さ三十六間の細長い倉庫を造り、製材品倉庫も併設した。木材倉庫の入口に、三坪位の小さい店舗をも併設した。一連の工事了後の姿は、住宅は古手伝町（しもた屋に改造）、営業所は神通町に設け、商売の拠点とした。営業所には宿直設備は無かった。私は昭和五年三月、富山

## 百二十四年の変遷

商業高校を卒業し、四月から直ちに家業を手伝った。

明治四年 古手伝町にて創業  
現在の安田町  
六十四年間営業

昭和九年 神通町へ移転  
現在の宝町（社長宅）  
十五年間営業

昭和二十四年 木場町へ移転  
現在の運河側工場跡  
四十五年間営業

平成六年 工場のみ草島へ移転  
本社横に建材事務所  
を新設し営業は継続

\*\*\*